

「けやき俳句の会」会報(第二百八回)

令和三年一月

第二百八回句会記録

★日時 令和三年一月一三日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

- ③ 散り尽くす木の葉未来を信じつつ
筑波嶺の伝承数多年初め
千葉港の白いサイロや去年今年

真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎④ 囲炉裏端四方山話は国のこと 而今
- ◎② 冬満月空にくつきり妻の声 青嵐
- ◎① 初夢はモノクロなりて過去のこと 東洋
- ④ 初御空未知の禍(まが)ごと収まらず 紀泉
- ④ 落葉焚の記憶は遠く庭を掃く 真弓
- ④ 世情乱る吾は凡庸に年新た 清明
- ③ 没日濃く枯蠮螋の斧たたみ 清明
- ③ 乱世なり子らの帰れぬお正月 清明
- ③ 除夜の鐘八十代も上り坂 夢城
- ① 八十路無事に越して新年迎えけり 誠
- ① 柚子風呂に憂いの手足伸しけり 真弓
- ① 裸木の大神堂々吾と対峙 一華
- ① 初詣新型コロナの終息も 樹音
- ① 寒波来る遠富士白く屹立す 藍愛

★会員互選句

- ⑥ 無為といふ籠りに飽くや四日なる 冬水
- ⑤ 限りなく降る雪時を狂わせる 香魚
- ⑤ 着ぶくれてバイク走らせ君来たる 久美子
- ③ 牛歩なるも日々の実りを初祈願 真弓

③ はやぶさ2.輝く光跡冬の空 秋雲

③ 消沈の脳に一撃冬の水 隼人

③ 千里来し濠の白鳥孤高なり 樹音

③ 煮含めし大根に箸の穴ふたつ 東洋

③ 独り居の慣れて野放図福寿草 久美子

② 焼き芋を待てず立ち去る煤け顔 夢城

② ふるさとの餅もめでたく魚沼の 冬水

② 初茜祈る言の葉永永(ようよう)と 紀泉

② あれもこれも輪廻転生柚子湯入る 秋雲

② 海原に初日眩しき桜島 隼人

② 縁(えにし)果つと諦む友の賀状来る 樹音

① 巫女宮司マスク姿の神事かな 而今

① 峠茶屋おでんの香り足止まる 而今

① コロナ禍に終止符欲しや去年今年 藍愛

① 丘に立ち冬夕焼を真正面 藍愛

① うたたねの妻への賀状炬燵上 青嵐

① マスクの下笑顔ですよとレジ貼紙 香魚

① 門松の緑引き立て実南天 蕉哉

① また一人逝きて賀状の束薄く 秋雲

① 短日やまた忘れたる飲薬 隼人

① 初暦格言ひとつ読み始め 東洋

① 歳重ね毎に減りゆく雑煮餅 盈光

【次回開催】

令和三年二月三日(水)

メール句会

自由句三句